



菊池裕菜
きくち ゆうな

株式会社ブレインマークス ビジネスコンサルタント

2018年にブレインマークス入社。会員サービス運用やCRMシステムの運用・改善、企業文化づくりなど多岐にわたる業務を経験。物怖じしないチャレンジ精神ととき細かな気遣いを武器に、顧客との関係構築に従事。現在はニーズを最先端で受け取る職務内容を生かし、サービス業務改善、満足度向上に力を注いでいる。

10年後のためのアドバイス!

私自身、自然が大好きなので、以前から高野社長のお話はジックリと伺ってみたいと思っていました。実際にその機会を得たことで、理想を実現するための苦悩や葛藤、そしてそれらを乗り越えるための覚悟の重要性を感じることができ、大いに刺激を受けました。同社が手掛ける住宅はまさにそういった高野さんの覚悟の賜物です。随所に安心・安全な自然素材が使われ、自然との調和をはかろうとする思いが詰まっています。また、今後の事業展開については「やみくもに売り上げを増やすのではなく、保険やメンテナンスなどのアフターフォローサービスを拡充させながら事業の幅を広げていきたい」とのことなので、地域密着型企業としてのさらなる飛躍が期待できるかと思っています。

菊池 高野社長の思いが伝われば、さらに多くのファンを獲得できると思います。さらなる成長に向けて頑張ってください。

いて起業し、事業を営んできたんですね。
高野 そうですね。建築だけでなく、たとえば食事でも身体にいいものを選ぶなら、有機野菜など自然の力を生かした材料を使った料理のほうが優れています。しかし、それにはどうしても相応のコストがかかるので、ビジネスとして成立させるにはその価値を理解し、それだけの対価を支払ってくれる顧客を探したり、そうした消費文化を醸成したりしなければなりません。一企業としてできることはかぎられていますが、とにかく自分でできる範囲までやってみたいという思いで事業に取り組みつづけてきました。

菊池 起業当初はそうした理想と現実の間で苦労することも多かったかと思いますが、一番大変だったのはどういったことでしたか。
高野 頭ではわかっていましたが、実際に会社を経営してみると、理想と現実のギャップが想像以上に大きかったです。理想を曲げてまで仕事はしたくないという思いがあったので、仕事を上手に回せずに葛藤することもしばしばありましたし、ときには「ヒョッとしたらこの考え方は間違っているのではないか」と自分を信じられなくなりそうになったこともありました。



社内でのプレゼンディスカッションの様子

高野 ある時期に覚悟をきめて、自分のやり方を貫くことにしたので、自身を思いを社員全員に伝えたいと、取引先にも会社の方針を「宣言」のような形で表明したのです。一時的には社内で反対意見も出ましたが、しばらくすると共感してくれる仲間が増え、より強い思いで結ばれるようになりました。

菊池 具体的にはどのようなことを表明したのですか。
高野 主軸としているリフォーム・リノベーションと新築・注文住宅では「自然っぽい素材」ではなく、「本物の自然素材」にこだわることを、そしてお客さまにシッカリと寄り添い、ライフスタイルや予算に合わせた最高のプランを提案することを表明しました。また、完成して引き渡した後も定期的なメンテナンスを行い、自社の顧客に時間をかけて当社の価値を知っていただくようにしました。

菊池 現在、お客さまにはどのような提案をしているのですか。
高野 まずは無料で相談に応じたいです。実際に自然素材の肌触りや空気感、においなどをお客さまに体感していただくようにしています。そして、お客さまのニーズを踏まえて、わかりやすいビジョンを共有してから工事に取り掛かるようにしています。そうやってシッカリと納得いただけるようにしています。

菊池 裕菜・ブレインマークス ビジネスコンサルタント「自然素材にこだわる」というコンセプトはどのような経緯で生まれたのでしょうか。
高野 夢工房代表取締役 小学校5年生のとき、担任の先生

高野 頭ではわかっていましたが、実際に会社を経営してみると、理想と現実のギャップが想像以上に大きかったです。理想を曲げてまで仕事はしたくないという思いがあったので、仕事を上手に回せずに葛藤することもしばしばありましたし、ときには「ヒョッとしたらこの考え方は間違っているのではないか」と自分を信じられなくなりそうになったこともありました。

文住宅では「自然っぽい素材」ではなく、「本物の自然素材」にこだわることを、そしてお客さまにシッカリと寄り添い、ライフスタイルや予算に合わせた最高のプランを提案することを表明しました。また、完成して引き渡した後も定期的なメンテナンスを行い、自社の顧客に時間をかけて当社の価値を知っていただくようにしました。

菊池 現在、世界ではSDGs（持続可能な開発目標）が叫ばれ、各国の企業が自然環境の保全とバランスのとれたビジネスはどういうものかと模索しています。高野社長はこの言葉が出てくる前からそのことをずっと思い描

菊池 現在、世界ではSDGs（持続可能な開発目標）が叫ばれ、各国の企業が自然環境の保全とバランスのとれたビジネスはどういうものかと模索しています。高野社長はこの言葉が出てくる前からそのことをずっと思い描

高野 潤

たかの・じゅん

株式会社夢工房 代表取締役

1968年生まれ。91年法政大学社会学部卒業。南長谷工コーポレーションを経て、2000年南丸高（横浜市、現・株丸高コーポレーション）に入社。03年同社代表取締役。08年同社建築部門を独立分社し、株夢工房を設立。



10年後をリードする 未来企業

91

自然素材を取り入れた住まいづくりでビジョンを共有してファンを獲得

横浜市を拠点に、首都圏などでリフォーム・リノベーション、新築・注文住宅の設計と施工を手掛ける株夢工房。同社は高野潤社長が小学生の頃から思い描いていた「自然素材にこだわる」というコンセプトの下、コロナ禍のなかでも着実に成長している未来企業だ。さっそく、高野社長の夢と思いに株ブレインマークスの菊池裕菜氏がアプローチした。



施工事例



完成見学会の様子

から繰り返して「人間は動物と同じで地球に住まわせてもらっている」と教えられました。振り返ってみると、その影響で「人間は山を切り崩して家やマンションをつくり、住みやすいように変えていったんだ」と感じるようになり、いつの頃からか「自然と人間のつながり」について真剣に考えるようになったように思います。また、大学生になってスキー旅行に行ったときの経験も大きいですね。そのときに運悪く高熱が出てしまい、自然素材のログハウスで休んでいたのですが、不思議なことにみるみるうちに元気になったのです。これも自然素材の持つ力に興味を持つきっかけになりました。

菊池 その後、どうして開発する側の道を選んだのですか。
高野 「人間と自然の共存を考える」というテーマの卒業論文を執筆したのを機に、現代の生活や経済の根幹を担っているのは開発する側だという認識を持つようになりました。それで、どうしたら自然と調和した開発を実現できるのだろうかと考えた末に、その答えを自分なりに出すために建築業界に飛び込んだのです。

菊池 現在、世界ではSDGs（持続可能な開発目標）が叫ばれ、各国の企業が自然環境の保全とバランスのとれたビジネスはどういうものかと模索しています。高野社長はこの言葉が出てくる前からそのことをずっと思い描